

21世纪大学日语系列教材

主编 刘旭宝 程放明

进级日语阅读

2级

上海交通大学出版社

21 世纪大学日语系列教材

进级日语阅读

(2 级)

主 编	刘旭宝	程放明
编 者	刘旭宝	程放明
	毕 凌	曾 波

上海交通大学出版社

内 容 提 要

本书根据大学外语教学指导委员会、日语级制定的《大学日语(第二外语)教学大纲》编写。面向非日语专业的大学生以及其他具有中级以上日语水平的读者。书中精选日语原版文章 20 篇,题材广、内容新、较好地兼顾了可读性和实用性。每课配有词汇学习、语言表达、综合练习等学习内容,以帮助读者正确理解课文,文后的阅读练习能够进一步提高日语读者的阅读水平。读者既可将本书作为阅读教材,也可以作为 2 级日语能力考试和大学日语 4 级考试的参考书。

图书在版编目(CIP)数据

进级日语阅读 .2 级/刘旭宝,程放明主编. —上海:
上海交通大学出版社,2005
(21 世纪大学日语系列教材)
ISBN 7-313-04146-2

I. 进... II. ①刘...②程... III. 日语-阅读教学
—高等学校-水平考试-教材 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 099855 号

进级日语阅读

(2 级)

刘旭宝 程放明 主编

上海交通大学出版社出版发行

(上海市番禺路 877 号 邮政编码 200030)

电话:64071208 出版人:张天蔚

上海交大印务有限公司印刷 全国新华书店经销

开本:787mm×960mm 1/16 印张:17 字数:316 千字

2005 年 10 月第 1 版 2005 年 10 月第 1 次印刷

印数:1~5050

ISBN 7-313-04146-2/H·823 定价:26.00 元

版权所有 侵权必究

21 世紀大学日语教材编委会名单

主 任 宿久高(吉林大学教授)

吴 侃(同济大学教授)

副 主 任 张建华(上海交通大学教授)

吕寅秋(上海师范大学教授)

刘旭宝(西南交通大学教授)

刘春英(山东师范大学教授)

秘 书 长 陈崇君 徐 曙

编写委员会成员 (按姓氏笔画)

王 颖 王蜀豫 宋 杰 何涪嘉

张 懿 陈琦佳 金 蔚 罗 俊

周保雄 周 星 贺晓蓉 项杏林

修德健 徐 曙 梁高峰 曾 波

鞠 娟

顾 问 稻森信昭

序

随着我国加入世贸组织,进一步融入全球化的经济体系,以及因此而带来的投资环境的改善,日本对华投资也进一步增加,中日两国的经济联系达到了史无前例的密切程度。在这一大气候下,日语学习也一直持续着一浪高过一浪的热潮。就学校中的学习而言,除了日语专业在增加、招生人数在扩大外,其他各个专业的学生也纷纷选择日语作为第二外语,以期掌握更多有用的知识,为将来走上社会大显身手积蓄力量。

在这种情况下,对日语教材的需求也呈现出不同以往的迫切性和高要求性。普通的教材已经无法满足当前学习者的需要,必须编写出真正体现我国长期以来教学经验积累的、反映当前日语研究最新成果的、适合我国学习者需要的日语新教材。

这部教材正是上述方针的体现。作为大学中的第二外语教材,首先,它紧密结合日语能力考试和第二外语教学大纲,在第二外语的教学时数内,重点学习大纲规定的内容。此外,教材很好地应用了我国长年日语教学的成功经验,具有极强的针对性,直接为第二日语教学服务,非常适合中国人的学习。再者它还反映了日本及我国日语教学的最新研究成果,具体地体现于课文的编排、语法解释等之中,以有效提高教、学效果。课文内容反映了日本社会、文化的各个方面,有助于学生通过教材的学习初步了解日本社会、文化。每个单元都安排了自测试题,可训练学生通过日语能力考试和国内四、六级考试的能力。

如上所述,本教材是一部真正适合中国学习者使用的实用性、趣味性、新颖性均佳的教材。

吴 侃

2005年7月

前 言

本书是以具有中级以上日语水平的读者为对象编写的阅读教材,书中的大部分内容相当于日语能力考试的二级水平,小部分内容接近一级水平,适合日语专业三年级学生及相当水平的读者使用。

本书体裁多样,有评论、随笔、小说、采访等,内容丰富,涉及语言学、心理学、社会文化、科普常识、科学幻想等。既能使读者接触多种文体,提高学习兴趣,培养日语的阅读能力,又能让读者通过学习了解到许多相关知识。

本书共有20课,每课由课文、词汇学习、语言学习、语言表达、综合练习、阅读练习等内容组成。词汇学习和语言表达主要是对课文中出现的有一定难度的词汇和语言现象进行解释,目的是消除学习课文时的语言障碍。为了进一步提高读者的日语思维能力和理解能力,书中的词汇学习、语言表达均用日语解释,并附有汉语翻译,以方便读者自学。综合练习旨在帮助读者理解课文内容,掌握日语词汇、句型的表达方式。阅读练习旨在综合训练读者的阅读理解能力,可在课外限时完成,以检验学习成果和实际的日语阅读能力。

本书由刘旭宝、程放明主编,负责全书的体例设计和统稿。具体撰写分工是,第1课~第5课由曾波编写;第6课~第10课由毕凌编写;第11课~第15课由程放明编写;第16课~第20课由刘旭宝编写。

在本书编写过程中,得到了西南交通大学日本专家金译正大先生、吉井英人先生及许多同仁的热情帮助,在此深表谢意。

由于编写者日语水平和其他方面知识的不足,书中可能出现不当之处或谬误,恳请读者指正。

凡 例

言葉の表現に使われた文法関連の記号

N……体言

Na……形容動詞の語幹

A……形容詞の語幹

Aーい……形容詞の終止形と連体形

Aーく……形容詞の連用形

Vーり……動詞の連用形(五段音便も含む)

V……動詞のいろいろの基本形

Vーる……動詞の終止形と連体形

Vーた……動詞の過去形

Vーら……動詞の未然形

Y……用言のいろいろの連体形

S……文

目 次

第一課	(1)
本文:出る杭は伸ばそう	(1)
一、出る杭(くい)は打たれる	(3)
二、お高くとまっている	(3)
三、(N)ほど(N)はない	(4)
四、(N)を余儀なくされる	(4)
五、(N)を(N)に(して)	(4)
六、せっかく(副)	(4)
七、(N)すら(助詞)	(4)
八、(V-る)半面	(5)
九、(N/S)に違いない	(5)
十、(Nの/V-る)際(に/は)	(5)
十一、(Y/N)ではないだろうか	(6)
読解練習:海外帰国子女	(8)
第二課	(12)
本文:日本語のころ	(12)
一、頭を下げる	(15)
二、そういえば	(15)
三、(Y)わけではない	(15)
四、(N/S)ったって	(16)
五、(V-り)て初めて	(16)
六、(Y)わけだ	(16)
七、(V-ら)ずに	(16)
八、別に~ない	(17)
九、(V-る)一方	(17)
十、(S)とする	(17)
読解練習:言い損ない	(19)

第三課	(22)
本文:店員の応対	(22)
一、カチンとくる	(25)
二、(Vーら)んばかり(の/に/だ)	(25)
三、(S)とは限らない	(26)
四、(Vーら)なくて(も)済む	(26)
五、(N)と(N)とでは	(26)
六、(N)に引き換え	(26)
七、(Vーり、Λーく)ては	(27)
八、(Vーれ、Λーけれ)ば(同ー Vーる、Λーい)ほど	(27)
読解練習:販売員の研修	(30)
第四課	(34)
本文:忘れられた長江文明	(34)
一、(S)という	(37)
二、(N)から見れば	(37)
三、(N)を(N)とする	(38)
四、(S)とされる	(38)
五、(Y)はずはない	(38)
六、(Y)ことになる	(38)
七、(Y)ことになっている	(39)
読解練習:ものを大切に	(41)
第五課	(44)
本文:栄養	(44)
一、(Vーる)の(に)(に)(は/も)	(47)
二、(N)そのもの	(47)
三、(N)にしても	(47)
四、その(N) その(N)	(47)
五、(N)に限ったことではなく	(48)
六、(Vーり/Λーい/Na)ながら	(48)
七、(N)にわたっての(N)	(48)
八、(N/S)というより(も)	(48)
九、(Vーら)ようが	(49)

十、(N)といった(N)	(49)
十一、(N)にある	(49)
十二、(S/N)といっても	(49)
十三、(S)としても	(50)
読解練習:靴の科学	(52)
 第六課	 (55)
本文:歩道橋	(55)
一、馬鹿にならない	(57)
二、尾(お)を引く	(57)
三、(N)しかない	(57)
四、それにしても	(58)
五、(N/Y)にはかならない	(58)
六、(N)そのけ	(58)
七、(N)以外の何ものでもない	(58)
八、どんなに～と言っても	(58)
読解練習:人間砂漠	(61)
 第七課	 (64)
本文:近代的	(64)
一、いずれにせよ	(66)
二、要するに	(66)
三、(N/S)と同時に	(66)
四、一方で(は)～、他方で(は)～	(66)
五、(N)では	(67)
六、(N)いかんで	(67)
七、(N/S)といって(は)(N/S)といって(は)	(67)
八、さっぱり～ない	(67)
九、(N)をもって	(67)
十、(V-ら)ないでいる	(68)
読解練習:近代の擁護	(70)
 第八課	 (73)
本文:コンビニ考	(73)

一、差をつける	(75)
二、用を済ませる	(76)
三、(N/S)と言っても過言ではない	(76)
四、(N/S)というところか	(76)
五、ところで	(76)
六、(S)としたら	(77)
七、(V-り)つつある	(77)
読解練習:余暇の意味変化促す	(80)
 第九課	 (84)
本文:ネット人格	(84)
一、罵声を浴びせる	(87)
二、話にならない	(87)
三、推して知るべし(おしてしるべし)	(87)
四、火に油を注ぐ	(88)
五、收拾がつかない	(88)
六、一線を越える	(88)
七、逃げを打つ	(88)
八、引っ込みがつかない	(88)
九、場(ば)が荒れる	(89)
十、ところが	(89)
十一、(N)となれば	(89)
十二、(N)一つで	(90)
十三、(N/Y)だけに	(90)
十四、(N/S)となると	(90)
読解練習:パソコン	(92)
 第十課	 (95)
本文:異文化の根っこ	(95)
一、合点(がってん)が行く	(99)
二、気に食(く)わない	(99)
三、したがって	(100)
四、(Nの/V-る)恐れがある	(100)
五、(V-ら)させられる	(100)

六、(Y)のではないか	(100)
七、(N)をめぐって	(101)
八、(Vーリ)/Aーく)て(は)たまらない。(Na)で(は)たまらない ..	(101)
読解練習:透明人間	(103)

第十一課 (107)

本文:火の発見と化学の芽ばえ (107)

一、とにかく～がちだ	(109)
二、(N)といえば	(109)
三、(S)とする	(110)
四、(Y)以上	(110)
五、(Vーリ)得る	(110)
六、というのは～ということだ(からだ)	(110)

読解練習:大発明 (113)

第十二課 (116)

本文:昼の蝶の存在について (116)

一、蝶よ花よと育てる	(118)
二、口をつぐむ	(118)
三、(N)を問わず	(118)
四、そもそも	(119)
五、(S)とすれば	(119)
六、(N)を/をして(N)たらしめる	(119)
七、(S)からこそ	(119)
八、(N)とおぼしき	(119)
九、(N)たるもの	(120)
十、(N/Y)ほどに	(120)
十一、(Vーら)ざるをえない	(120)
十二、(Y)ことに(は)	(120)

読解練習:最初の人 (123)

第十三課 (127)

本文:携帯上司 (127)

一、聞き耳を立てる	(130)
-----------------	-------

二、暗黙(あんもく)の了解	(130)
三、臆面(おくめん)もなく	(130)
四、(N)であれ、(N)であれ	(130)
五、(V-る)ようにして	(130)
六、(V-る)べく	(131)
七、だからこそ	(131)
八、(V-る)までもない	(131)
九、さて(接続詞)	(131)
十、だって(接続詞)	(132)
十一、とすると	(132)
十二、で(接続詞)	(132)
読解練習:ほんの一声	(135)
 第十四課	(138)
本文:危険な宇宙ゴミが9000個、天空を飛んでいる	(138)
一、ピンとくる	(141)
二、馬鹿にはできない	(141)
三、(V-り)/助動詞「たい」放題	(141)
四、(Y)ことは(前と同じ品詞)が(けれども)	(142)
五、(S)となれば	(142)
六、(N)に際して	(142)
読解練習:100億頭のゾウ	(144)
 第十五課	(148)
本文:筧の話	(148)
一、気が散る	(151)
二、耳を澄ます	(151)
三、耳を傾ける	(152)
四、束の間(つかのま)	(152)
五、(N)(に)そっくり	(152)
六、(V-り)ては	(152)
七、(Y)ばかりで	(152)
八、(V-た)途端(に)	(152)
九、(V-ら)ないではいられない	(153)

読解練習:物のころ	(155)
第十六課	(159)
本文:笑いについて	(159)
一、手の舞足(まいあし)の踏む所を知らない	(161)
二、(V)そうになる	(161)
三、(V-る)ことはない	(162)
四、(N/Y)かという(～かといえは)	(162)
五、(N)にそぐわぬ(N)	(162)
六、(V-ら)ずにはいられない	(163)
七、(N)でもなければ、(N)でもない	(163)
八、(N)に限らず	(163)
読解練習:笑い	(165)
第十七課	(169)
本文:解ける問題と解けない問題	(169)
一、(S)といっても、～ない	(172)
二、(N/Y)にしても、(N/Y)にしても	(172)
三、(疑問詞)かという	(173)
四、そうすると	(173)
五、ということは	(173)
六、それなら(ば)	(173)
七、そうすれば	(174)
八、(N/V-る)ごとに	(174)
九、(N)でもって	(174)
十、(S)とすると	(175)
読解練習:インフォームド? コンセント	(177)
第十八課	(181)
本文:特許の品	(181)
一、決死的な覚悟(けっしてきなくご)	(185)
二、文句をつける	(185)
三、味をしめる	(185)
四、(V-ら)ないともかぎらない	(185)

五、(N)によると	(185)
六、さすがに(副詞)	(186)
七、(V-た/Nの)あげく(に)	(186)
八、(V-り)ようが(も)ない	(186)
九、それどころか	(186)
十、(V-ら)ないわけに(は)(も)いかない	(187)
十一、となると	(187)
十二、(S)との(N)	(187)
十三、(V-る)までのことだ	(188)
読解練習:人間とロボットの共生	(190)

第十九課

本文:「言葉」とコミュニケーション	(196)
一、何といっても	(199)
二、(V-る/Nの)うえで(上で)	(199)
三、(N)に応じて	(200)
四、(と)同時に	(200)
五、~を通して	(200)
六、(N/Y)なり	(201)
読解練習:認知科学	(204)

第二十課

本文:宇宙からの使徒	(208)
一、(V-り)てごらん	(212)
二、(S)といったところだ(~というところだ)	(212)
三、(N)としても	(212)
四、(S)からといって~ない	(213)
五、(N)からいえば	(213)
六、(N/Sなど)とばかり(に)	(213)
七、だからといって	(214)
読解練習:個人主義について	(217)

語彙の索引	(221)
練習の解答	(228)

第一課

★ 考えること

- ① 現在日本に戻った海外帰国子女の現状はどうなっているのですか。
- ② その原因は为什么呢。
- ③ 帰国子女の長所を考えてみてください。

出る杭は伸ばそう

はや みず けん じ ろう
速 水 健 次 郎

「出る杭は打たれる」—これは昔から日本にある諺で、辞書には「目立つものはとかく他に押さえられる」と書いてある。この諺ほど日本人の特質を如実に物語っているものはない。個人より集団の和が重要視され、集団からはみ出す個人は容赦なく叩かれる。その典型的な例が帰国子女である。

帰国子女は、日本企業の海外進出と共に増加した。彼等は、自分の意志とは関係なく、親の都合で外国生活を余儀なくされる。アメリカ、イギリス、ドイツなど先進国に行った子供は、大概その国の学校に入り、現地の言葉を学びながら週末に日本語学校へ行った日本語を勉強する。発展途上国に行った子供は、日本と比較してその国の教育水準が低いため、アメリカンスクールや幸運な場合は全日制の日本語学校へ行く。しかし、その国の言語を学ぶというのは極めて稀である。いずれの場合も、日本語を聞いたり話したりする機会は非常に限られるため、日本の子供と比較して当然日本語の能力が低くなってしまう。それと共に、国語、日本の歴史、地理など大学受験に必要な知識も不足してしまう。

また、外国の教育を受けるため、性格的にも日本の子供とかなり違ってしまふ。日本では、皆と同じように考えたり行動したりするのが良いと教育されるが、外国、特に欧米諸国では、他人と異なる自分独自の何かを大事に育てるべきだ、何かをする場合他人と違う自分にしか出来ないことをやれ、というように個人中心の教育を受ける。そのため、自分の意見、考えをはっきり分かりやすく主張するのが上手になって帰国する。

帰国子女が日本に戻って来て、学校に入る。当然英語などの外国語が堪能で、日本人の子供にはない何か特別な才能、技術を持っている場合が多い。以前なら何か特長を持っていると尊敬されたものであるが、最近はその特長さえ「いじめ」の対象になってしまう。英語の発音がきれいで生意気だ、ピアノが上手でお高くとまっている、など自分達と違っていることを理由に集団で帰国子女をいじめる。帰国子女は、仲間に入れてもらいたいので、他の子供と違う点は直して出来るだけ皆と同じようになろうと努力する。そのため、せっかく外国で身に付けたものを捨ててしまう。正確に自己主張する能力、流暢な外国語、物事を論理的に分析する能力、などすばらしい長所すらなくしてしまうことも度々ある。

教師の態度も帰国子女が海外で身に付けた素晴らしい能力を捨てる一因となっている。帰国子女は、長い外国生活を経験して、再び日本の学校生活に戻り安心する半面、他の子供達と一緒にうまくやっていけるかという不安が大きいに違いない。本来教育者のあるべき姿から考えると、教師は帰国子女が新しい環境にスムーズに順応出来るように協力して、彼らの長所を認め、それを積極的に伸ばそうと努力すべきである。しかし、現実には個人的に彼らの面倒を見る時間も暇もない。また、彼らの長所が受験勉強に関係のないものである場合には、全く無視するような傾向がある。早く他の子供達と同じようになることにのみ注意を払い、彼らの長所を伸ばすことなど眼中にないようである。

以上のような理由で帰国子女が海外で習得して来た貴重な財産が生かせない、ある場合にはその貴重な財産のために帰国子女がいじめの対象になるというのは、日本の将来にとって深刻な問題である。日本は、「経済大国」になった今、世界のリーダーの一員として国際社会のために貢献すべきだ、日本は島国根性を捨てて国際化を進めるべきだ、という国民の声が新聞を賑わしている。帰国子女は長い海外生活を通して鋭い国際感覚を身に付けて帰国する。それを有効に利用することが出来れば、日本が国際社会で活躍する最有力な武器になる。二十一世紀の日本を考える時、「出る杭」を打って、素晴らしい能力、長所を破壊し、その他大勢と同じ人間を作るような教育よりも、「出る杭」をどんどん伸ばし、活用するような教育をするほうがいいのではないだろうか。

(「辛口エッセイ」による)

• 語彙の学習

1. はみ出す(食みだす)(自五)収まるべき枠の中に収まらず、外へ出る。/ 挤出。溢出。露出。超出。突击。